

AI技術を活用したセルフメディケーション支援ツールの開発と評価

大阪大学大学院 薬学研究科 田 雨時

- **目的**

医薬品情報、特にOTC医薬品に関する情報提供は、薬剤師および登録販売者にとって重要な業務の一つである。近年、外部通信を必要としないオープンウェイトの大規模言語モデル（LLM）は、セキュリティの観点からも有用な補助ツールとなり得る。しかし、その実用性や、当該分野に特化したモデルの必要性については十分に検討されていない。

- **内容**

- OTC医薬品に関するデータを基に、合成データを生成する。
- 生成した合成データを用いてLLMのファインチューニングを実施し、OTC領域に特化させたLLMを構築する。

- **結果**

- 難易度と形式を多様化した合成データの作成に成功した。
- LLM-as-a-Judgeにより合成データの質を評価・選別した結果、高品質な合成データの構築に成功した。
- 上記の合成データを基にLLMのファインチューニングを実施し、OTC領域特化型のLLMの構築に成功した。
- 評価については、次年度以降を実施する予定である。